

注意報第4号

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿
農業資材販売等関係者

福岡県病虫害防除所長

平成19年度病虫害発生予察注意報第4号について

このことについて、病虫害発生予察注意報第4号を発表したので送付します。

イチゴ

- 1 病虫害名：炭そ病
- 2 発生地域：県下全域
- 3 発生予想：多
- 4 注意報の根拠

7月2半旬に県下20か所の育苗床の苗から下位葉を採取し、エタノール浸漬による簡易診断方法で炭そ病の潜在感染株調査を行った結果、潜在感染株の発生ほ場率は60.0%（前年61.9%）、感染株率は21.3%（16.9%）と高い。

本病は、高温期の降雨で発生が助長される。今後1か月間の降水量は平年並と予想されており、今後の発生増加が懸念される。

潜在感染株調査の結果（別表）（採取日：7月2半旬、検定日：7月5半旬）

炭そ病	潜在感染株発生ほ場率	60.0%（前年 61.9%）
	潜在感染株率	21.3%（前年 16.9%）
葉枯炭そ病	潜在感染株発生ほ場率	35.0%（前年 38.1%）
	潜在感染株率	12.5%（前年 9.0%）

5 防除上の注意等

- （1）罹病株は感染源になり、降雨やかん水により急速に蔓延するので、発病を確認した苗は速やかに持ち出し処分する。
- （2）病徴が出ていなくても潜在感染している可能性がある。本病は高温期の降雨で発生が拡大しやすいので、発生状況に注意する。
- （3）窒素肥料を多用すると発生しやすいので、適正な肥培管理に努める。
- （4）夜冷短日や低温暗黒などの処理は、株へのストレスがかかり発生を助長するので、発病を確認した育苗床の苗はこれらの処理に用いない。
- （5）発病後の薬剤散布は効果が低い。葉かぎ作業直後や降雨前後に予防散布を行う。
- （6）雨よけ育苗等で風通しが悪いと多湿となり発生しやすいため、通風を図ると共に、鉢の土壤水分を適切に保つようにかん水を行う。

別表

イチゴ炭そ病 潜在感染株調査

調査地点	2007年			
	6月2半旬調査		7月2半旬調査	
	Glomerella cingulata による炭そ病	Colletotrichum acutatum による炭そ病 (俗称：葉枯炭 そ病)	Glomerella cingulata による炭そ病	Colletotrichum acutatum による炭そ病 (俗称：葉枯炭 そ病)
	潜在感染株率 (%)			
前原市本	0	0	25	0
福津市須多田	0	5	15	5
久留米市田主丸町	0	0	5	0
久留米市宮ノ陣町	0	0	15	0
筑前町栗田	-	-	0	0
福智町伊方	0	0	0	0
八女市蒲原	0	0	0	0
筑後市上北島	5	0	0	0
大川市兼木	5	0	0	0
大木町蛭池	0	0	0	0
黒木町串毛	0	0	20	0
広川町太田	5	0	10	0
広川町水原	0	0	0	0
みやま市高田町黒崎開	5	0	0	0
岡垣町吉木	0	0	70	50
岡垣町吉木西	0	20	60	65
岡垣町新松原	0	45	-	-
みやこ町徳政1	0	5	40	55
みやこ町徳政3	5	35	50	30
行橋市二塚	0	0	30	15
豊前市荒堀	10	15	85	30
豊前市久路土	0	30	-	-
豊前市皆毛	0	40	-	-
平均	1.6	8.9	21.3	12.5
前年	-	-	16.9	9.0
本年発生ほ場率	27.3	40.9	60.0	35.0
前年発生ほ場率	-	-	61.9	38.1

注1 調査地点数は県内のイチゴ育苗期の定期調査ほ場20か所

1地点20株、1株当たり下位葉2～3枚を採取

注2 検定手順

(1) 検定葉を70%エタノールに30秒浸漬後、殺菌水で水洗

(2) 殺菌水で湿したろ紙を敷いたシャーレに検定葉を収め、25℃に
設定した恒温器に2週間程度静置

(3) 検定葉を検鏡し、炭そ病菌を確認